

花粉の確保（採取から開薬）

1. 花蕾の採り方



やや早い

花卉が硬く、葯も未熟であり、葯の分離がしにくい。



採取適期

目安としては、風船状花を採取する。



遅い

完全に開花してしまうと開薬してしまうが、開薬してなければ使用可能

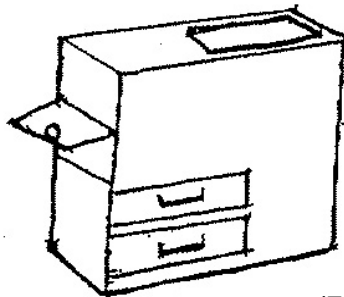
2. 採取した花蕾

- ・ 一定量採取したら持ち帰り、新聞紙等へ薄く広げて日陰におく。
(ミカン箱等にいられたままにしておくと、蒸れて高温になるので注意する。)
- ・ 水分がある場合は新聞紙を何回か取り替える。



日陰の新聞紙等へ薄く広げる

3. 水が切れたら葯採取機にかける

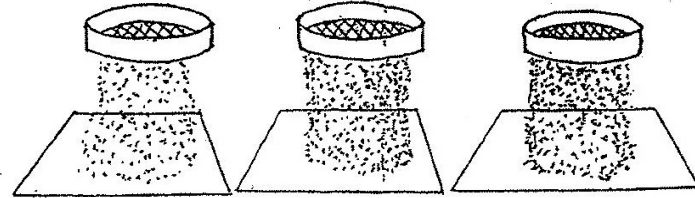


葯採取機

一握りづつ4~5秒入れる

4. フルイで花卉・花糸の除去

(水分が多い場合は、ロール紙等に薄く広げて乾かせてから行う)

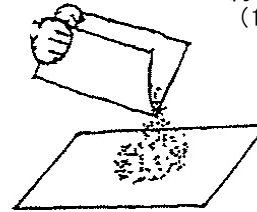


1.5~0.8mmのフルイを2~3回通す

5. ゴミの除去

和紙(檀紙・障子紙)に折り目をつける

残ったゴミを払う

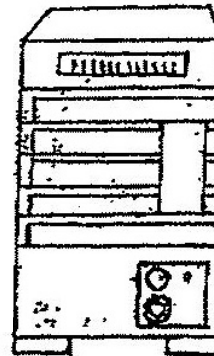


葯を少量広げ(10gぐらい)

紙を静かに傾けて葯が転がり落ちる

6. 開薬

(使用前日セット)



モ モ : 25℃
ス モ モ : 23℃
オウトウ : 23℃

- ①電源を入れ
- ②温度調節つまみを右に回すと赤ランプが点灯する。
- ③温度計を見ながら目標温度になったら
- ④温度調節つまみを左に戻し赤ランプが点滅する所で温度セット完了
12~16時間で開薬

ロール紙等、葯が付着しない紙へ葯が重ならないよう薄く広げる



15~20℃の室温で2日くらいで開薬する。
(直射日光を避ける)